

## SCREEN NOW vol.115

株主通信 2025年3月期

## デジタル化移行に伴う紙媒体の発行終了のお知らせ

115回に渡り株主の皆さまへお届けしてまいりましたSCREEN NOWにつきまして、今号をもちまして紙媒体の発行から、ウェブサイトでのデジタル配信に替えさせていただく運びとなりました。このたびの変更は、環境負荷低減をベースにしたデジタル化移行への取り組みとして、また、多くの方からのご要望に応えるものであります。今後は当社ウェブサイトでの開示をさらに充実してまいります。何卒ご理解いただけますよう、お願いいたします。

株主・投資家さま向けウェブサイト  
リニューアルのお知らせ

2024年10月に当社ウェブサイトをリニューアルいたしました。決算を中心とする財務情報、株主総会、経営方針、株価、配当などの情報や、当社グループの歩み、アニュアルレポートの他、各種資料を掲載しています。今後さらに内容の充実を進めてまいりますので、ご活用いただければ幸いです。

[www.screen.co.jp/ir](http://www.screen.co.jp/ir)

SCREEN 投資家

検索



本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

## 株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1  
[www.screen.co.jp](http://www.screen.co.jp)

SCREEN NOW Vol.115

発行日:2025年6月20日

発行責任:経営戦略本部 コーポレートコミュニケーション室 IR部



本誌では、当社製品(フォント)「ヒラギノ書体」「ヒラギノユニバーサルデザイン書体」を使用しています。

代表取締役 取締役会長

廣江 敏朗



代表取締役 取締役社長  
最高経営責任者 (CEO)

後藤 正人



## 新体制のもと

グループ全体の価値創造と成長性を追求します。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年6月20日付で社長を交代いたしました。前社長の廣江敏朗は代表取締役 取締役会長となり、新たに後藤正人が代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO) に就任いたしました。今後は廣江が取締役会議長として、実効性を向上させガバナンス強化に努め、後藤は事業面を中心とした執行に注力し、成長戦略をリードするという役割分担により、グループ経営のさらなる強化に努めてまいります。

2025年3月期の当社は売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも、4期連続で過去最高を更新しました。年間配当につきましても、過去最高となる308円となりました。また、この3月には株式会社日本格付研究所より、長期発行体格付を当社としては初のA+格、見通しは「安定的」に格上げいただきました。

今期2026年3月期は、中期経営計画「Value Up Further 2026」の2年目となります。初年度で顕在化した課題に取り組みながら、存在意義「人と技術をつなぎ、未来をひらく」を体現しつつ、次の10年を支える成長投資も積極的に行ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 連結業績

売上高

6,252 億円

(前期比 23.8%増)

営業利益

1,356 億円

(前期比 44.1%増)

経常利益

1,382 億円

(前期比 46.7%増)

親会社株主に帰属する当期純利益

994 億円

(前期比 40.9%増)

## SPE 半導体製造装置事業

売上高

5,195 億円

(前期比 24.4%増)

営業利益

1,369 億円

(前期比 41.1%増)

- 売上高、営業利益、営業利益率、すべて過去最高
- 売上成長率はWFEを2年連続アウトパフォーム(CY換算にて)
- 枚葉式洗浄装置の市場シェアが大幅に増加

## GA グラフィックアーツ機器事業

売上高

530 億円

(前期比 11.0%増)

営業利益

42 億円

(前期比 0.1%減)

## FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業

売上高

358 億円

(前期比 54.1%増)

営業利益

30 億円

(前期は4億円の営業損失)

## PE プリント基板関連機器事業

売上高

141 億円

(前期比 3.4%減)

営業利益

10 億円

(前期比 42.5%減)

Highlight

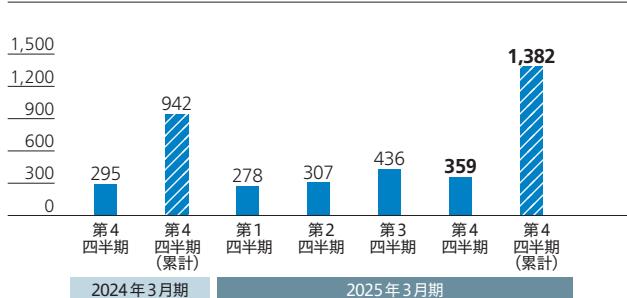
連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

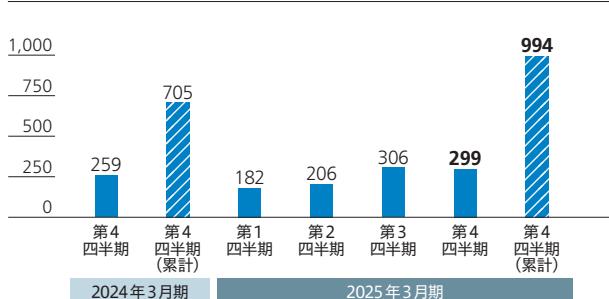
売上高・営業利益 (億円)



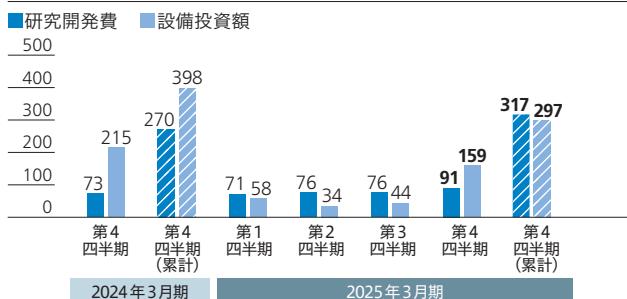
経常利益 (億円)



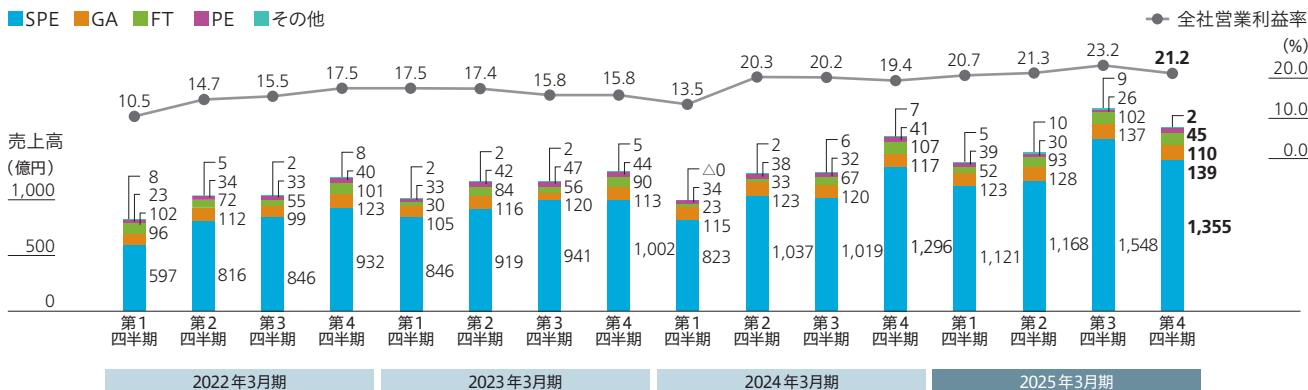
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



研究開発費・設備投資額 (億円)



セグメント別売上高・全社営業利益率



## ベルギー・imecとの協業で 環境性能に優れた装置開発を加速

2025年3月、ベルギーの半導体研究機関imecと新たに5年間の共同開発契約「Strategic Partner Agreement」を締結しました。近年、生成AIの活用拡大に伴うHPC（ハイパフォーマンス・コンピューティング）への投資を中心に、高性能半導体デバイスの需要が拡大しています。より高度な製造プロセスや環境負荷低減技術を実現するため、外部との連携による技術開発が重要になっています。

今回の契約はより長期的な成果を見据えたもので、当社は半導体業界の技術開発を加速させるとともに、デバイスメーカーの付加価値を最大化するソリューションを提供し続けていきます。



## 彦根事業所に新棟「S<sup>3</sup>-6」が完成

この度、彦根事業所にて、2024年2月より進めていた新棟「S<sup>3</sup>-6(エス・キューブ シックス)」の建設が完了し、2025年2月に操業を開始しました。

「S<sup>3</sup>-6」は、水素関連のデバイス製造拠点として、東京ガス(株)と共同開発をしているPEM形水電解用の電極膜および、ENEOS(株)と共同開発したDirect MCH<sup>®</sup>(ENEOS社の登録商標)用の電極膜製造ラインを設置。他にもFT事業の実験・部品検査フロアや、SPE事業の事務所機能を備えています。

当社は生産能力の拡大に向け、引き続き成長投資の強化を進めていきます。

## 米国・台湾の2社から 優れたサプライヤーとして表彰

(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ(SPE事業)は、台湾・TSMC社と米国・Micron社の2社から、事業活動に大きく貢献したサプライヤーとして表彰されました。いずれにおいても、事業活動における環境負荷低減への貢献が評価され、今回の受賞となりました。今後も、半導体洗浄装置のリーディングカンパニーとして、お客さまと一層強固な関係を築き、業界の発展へ貢献していきます。



S<sup>3</sup>-6(エス・キューブ シックス)